

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ
研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	超音波検査による質的所見を用いた乳癌術前化学療法後の病理学的完全奏効の予測
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	肝胆膵・乳腺外科学 准教授 亀井義明
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2029 年 3 月 31 日
対象となる方	2015 年 1 月から 2025 年 12 月に愛媛大学医学部附属病院において乳癌に対する術前化学療法を施行した後に手術を受けられた患者さん
利用する情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	乳癌に対する術前化学療法は、腫瘍縮小による乳房温存率の向上、薬物感受性の評価を可能とすることから広く用いられています。特に病理学的完全奏効(腫瘍が完全に消失)を得ることは長期予後が良いとされており、術前化学療法における治療効果判定は治療決定方針や乳房温存術の適応や切除範囲の決定等にも影響を与えます。現在は腫瘍最大径を用いた効果判定が一般的ですが、様々な影響で腫瘍径のみでは正確な残存腫瘍の有無についての判断が困難な場合があります。そこで、日常診療で広く用いている超音波検査による質的評価(腫瘍形態、血流、後方エコー等)を用いて、より正確に病理学的完全奏効を予測する因子を明らかにすることを目的としました。 上記に該当する患者さんの診療録および画像データを収集し、乳癌手術前の超音波質的所見と病理学的完全奏効との関連を解析し、予測因子の検討を行います。なお、本研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。

個人情報の 保護について	この研究で収集される情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。また、保管される情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部医学科 肝胆膵・乳腺外科学 亀井義明 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327